

学会長挨拶



国臨協関信支部

支部長 岩崎 康治

平素より国臨協関信支部の活動に対し、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。第48回国臨協関信支部学会は昨年度の「変革～新しい時代へ向かって～」からのステップアップとして「実践～新時代に挑む～」をテーマに令和2年9月5日（土）に国立国際医療研究センター病院において開催することで準備しておりました。しかし、昨年末から徐々に感染拡大し、全国そして世界的に多くの感染者を出すこととなったCOVID-19の影響が非常事態宣言解除後も収まることを知らず、学会が集合型開催できるのか検討して参りました。しかし、規模は違うものの第74回国立病院総合医学会（新潟）が5月29日にWEB形式で開催することが決定されたのを受けまして、6月18日に集合型開催を断念し形式を変えての開催とすることを会員皆様にお知らせさせていただきました。その後、会期および会場を変更していた日本医学検査学会もWEB形式を取り入れて開催したこと、首都圏を中心に感染者が更に増加してきたことで、支部学会の集合型開催を見送ったことは会員皆様の不安を払拭できたのではと思っております。

4月より演題募集を開始し締め切りの5月下旬には、例年より少ないとは言え10題ほどのエントリーをしていただき、最終的には14題の応募となりました。COVID-19対応の中にもかかわらず、日頃の成果を纏めていただいた会員そして施設の方には、どのように発表していただくかと検討いたしました。単純に抄録およびスライドの誌上発表も考えましたが、国立病院総合医学会はじめ各種専門学会などが、音声付きスライドによるWEB開催形式が発表され、応募いただいた会員皆様に伺いましたところ音声付きスライド作成が可能であると回答いただきました。WEB形式の開催も検討しましたが、関信支部ホームページ上ではサーバー容量と技術的な面、また専門業者に依頼した場合には費用の面で困難であると判断し、スライドを収録したデータディスクを各施設に配布し質疑を行う形式といたしました。開催変更となりましたが会員皆様にはご理解いただき活発に質疑をしていただき情報共有の場を設けさせていただきます。

今回も学会企画としまして、関信支部学術担当および学術委員会にご協力いただき、新人・若手 技師向けに2題の演題をお届けいたします。学会賞選考につきましても、応募演題数が14題ではありますが今年度も学術委員会の協力のもと選考する予定であります。48回を数える歴史ある国臨協関信支部学会ですが、初めて非集合型開催となりました。違う形でもその歴史は継承していかなければという思いで役員一同検討して参りました。会

員皆様には、その思いと有事の際における開催につきましてご理解いただき有意義な学術集会にさせていただきますようお願いしたいと思います。